

新規MRI装置の稼働 ～ すべての検査に対応可能 ～

放射線部 診療放射線技師長 **みやはら よしのり**
宮原 善徳

島根大学病院では本年1月より、新規MRI装置(フィリップス社:写真1、写真2)を2台導入し、3.0 T(テスラ)装置が3台と1.5T装置が1台の計4台体制で稼働を開始しました。年々、各診療科のMRI検査に対するニーズは高まり、安全安心な検査の施行はもとより、技術・知識向上にむけ日々研鑽に努めております。

それぞれの装置の主な特長として、主に脳血管および脊椎領域の検査はシーメンス社3.0T(写真3)とGE社3.0T(写真4)で、腹部、乳腺および心臓領域はフィリップス社3.0T(写真1)で撮像いたします。その他、頭部や四肢・関節等の動かない部位に対してはすべての3.0T装置に対応します。また妊婦、小児患者および体内埋込デバイス等への安全性確保のためにはフィリップス社1.5T(写真2)を使用します。さらに緊急MRI検査の迅速対応や遠方より来院された患者さんへの対応等、当院のMRI検査が多くの患者さんと依頼医のニーズに応えることが可能となりましたのでお知らせいたします。

また、この4台の装置を効率よく運用することで予約待ち日数の短縮をはかるとともに、質の高い画像提供と安全安心な検査を心がけてスタッフ一丸となって取り組んでまいります。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

3月15日～4月14日

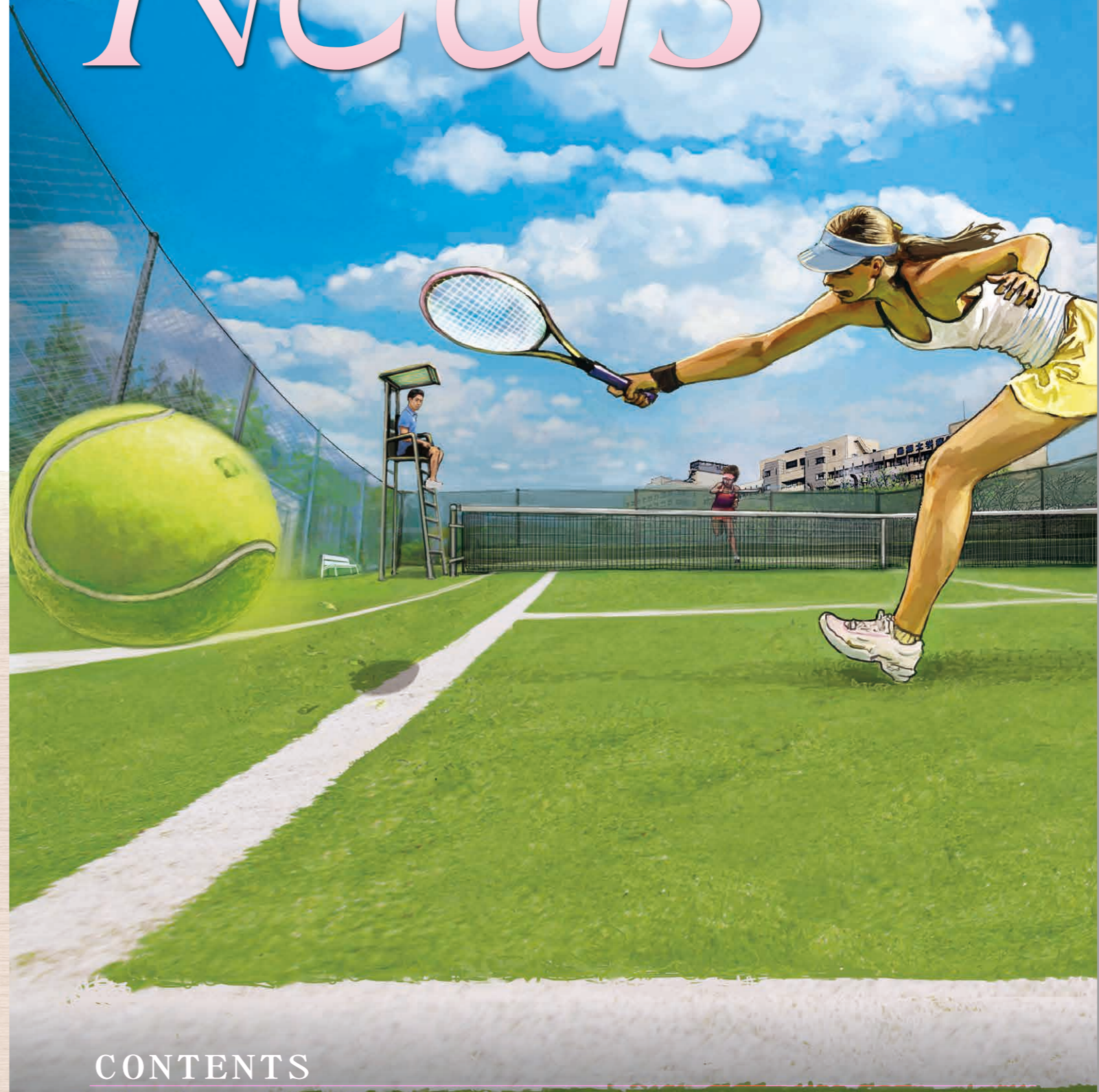
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/15(金) 9:30～11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟 3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
3/16(土) 10:00～11:00	市民公開講座「健康な次世代を創るために」胎内での栄養が生活習慣病を予防するーお母さんの葉酸と適切な栄養摂取でじょうぶな赤ちゃんをー 日本先天異常学会理事長/島根大学先天異常総合解析プロジェクトセンター長 島根大学医学部解剖学講座発生生物学 大谷 浩 教授	講義棟 1階 国際交流ラウンジ	一般 医療	島根大学先天異常総合解析プロジェクトセンター
3/19(火) 18:30～19:30	平成30年度 第4回 臨床研究・統計セミナー 「研究実施時のポイントーモニタリング結果を踏まえてー」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 富井 裕子 助教	みらい棟 4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
3/21(木・祝) 13:30～15:30	松江市民フォーラム 心不全について～その予防から最新の治療まで 総合ハートセンター センター長 循環器内科 田邊 一明 教授 うつ病に気づくために・気づいたらまずべきこと:心身両面の健康のために 精神科神経科 診療科長 稲垣 正俊 教授 緑内障について～新しい検査と手術 眼科 診療科長 谷戸 正樹 教授	★松江テルサ 1階 テルサホール	一般	島根大学医学部附属病院
3/31(日) 10:00～11:30	第12回 患者さんと家族のための関節リウマチ勉強会 「関節リウマチにおけるサルコペニアと骨粗鬆症」 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 副部長 酒井 康生 講師	ゼブラ棟 2階 カンファレンスルーム だんだん	一般	島根大学医学部 膠原病内科
3/31(日) 13:30～16:00	市民公開講座 潰瘍性大腸炎、クローン病、膠原病、リウマチ性疾患の若い患者さんと家族の方へ「病気と薬と妊娠・授乳」 「病気と妊娠、出産」 島根大学医学部附属病院 膠原病内科 村川 洋子 診療教授 島根大学医学部附属病院 産科 皆本 敏子 学内講師	ゼブラ棟 2階 カンファレンスルーム だんだん	一般	島根大学医学部 膠原病内科

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



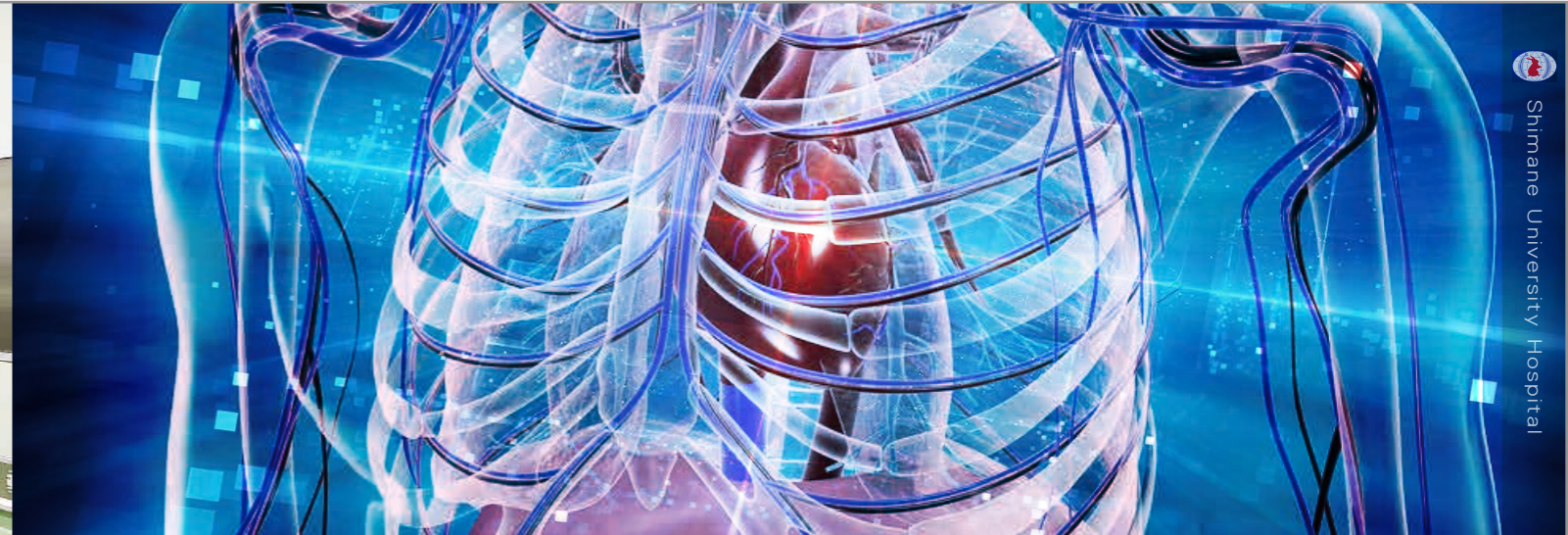
NEWS



CONTENTS

・Cadaver surgical training(CST)センターの設置について
・「循環器・呼吸器外科学(心臓血管外科)講師」就任のご挨拶

・新規MRI装置の稼働～すべての検査に対応可能～
・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報



Cadaver surgical training (CST) センターの設置について

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

先日受審した病院機能評価で最も重視される事項は、もちろん医療安全の実施体制です。安全な医療の提供には整備した体制が基盤となり、本院においても高難度新規医療技術等評価委員会が新技術を適切に管理する役割を担っています。特に手術、侵襲度が高い検査・処置を安全に実施するためには、適切な管理に加えて、有用性の高い教育・実習が肝要となります。手技習得は、実際の手術時等に手技を学ぶスタイルが大半で、動物、VRを利用したトレーニングも一部には活用されていますが、限定的です。海外ではCadaver surgical training (CST) が以前から実施され、効果的な手術手技の習得法として定着しており、本邦では、2012年に「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」が日本外科学会と日本解剖学会の連名で公開された後、日本外科学会CST推進委員会で承認された研修が15大学で行われています。CST開始に向けた学内手続きとして、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」に準拠した専門委員会の設置と審査が必要となります。ご遺体を臨床医のための解剖実習体として使用することについては昨年の有終会で会員の皆様の承認を頂いています。当院もCSTを始めることにより、学内外の外科系医師に対して手術手技等の効率的な習得機会を提供し、若手外科系医師の増加を図るとともに、より安全で高度な手術等を実施する体制を整備できるものと存じます。

CSTセンターは診療支援施設の一つとし、解剖実習室に隣接する準備室を整備するとともに手術台、電気メス、X線透視装置、鋼製小物等トレーニングに必要な物品を揃えます。CSTの実施については、今後関連診療科・部門で協議する必要がありますが、トレーニングを計画・実行する診療科等が責任を持って適切かつ透明性の高い運用を行い、解剖学(神経科学)がサポートする枠組みとし、CSTセンターが全体を管理する体制を構築します。

「循環器・呼吸器外科学(心臓血管外科)講師」 就任のご挨拶

循環器・呼吸器外科学 講師 なかと ともひろ
中田 朋宏

2018年11月から循環器・呼吸器外科講師として、また小児心臓外科担当チーフとして着任いたしました。私は、1999年に京都大学医学部を卒業し、そのまま京都大学医学部附属病院で研修しました。その後、静岡市立静岡病院に赴任し、成人心臓血管外科を学びました。その後は、小児心臓外科を専門とすべく、静岡県立こども病院、京都大学医学部附属病院、国立循環器病研究センターをスタッフとして研鑽を積んでまいりました。

当院の小児心臓外科は、2013年に藤本欣史講師を中心に立ち上げがなされ、以降先天性心疾患を有することも常に多大な貢献をしてまいりました。藤本講師の退職とともに、小児心臓外科専属医が1人となり、2018年4～10月は症例の制限をしておりましたが、私の着任後に、再び緊急手術を含む全ての症例を受け入れる体制に戻しました。2018年11月～2019年2月半ばまでに、大小合わせて21の手術を行い、乳児特発性僧帽弁腱索断裂の重度僧帽弁逆流に対する緊急弁形成手術や、完全大血管転位症の新生児に対する動脈スイッチ手術(ジャターン手術)などを行い、良好な結果を得ております。

小児心臓外科手術を実施する、山陰地方唯一の施設として、これからも先天性心疾患を持つ患者さんの外科治療に尽力いたします。皆様のご理解、ご支援、ご指導のほど、何卒よろしくお願いいたします。





ご報告

県西部初！浜田市民フォーラム 「島根大学の最新治療」2019早春を開催しました！

総務課企画調査係

春は名だけの風の寒さに…時折冷たい雨が降る2月11日(月・祝)、当院は浜田市で初の市民フォーラムを開催しました。悪天候にもかかわらず、会場の石中央文化ホール小ホールには80名の参加者にお集まりいただき、会場の小ホールは熱気に包まれ、一気に春が訪れたようでした。

参加者の皆さんは資料にメモをとりながら、一言も聞きもらさぬよう熱心に耳を傾けておられ、各講師の講演後には、大きな拍手が起こりました。質疑応答の時間は限られてはいましたが、多くの質問があり、講師は一つひとつ丁寧に回答しました。

この度の浜田市民フォーラムでは、県西部の皆様「医師不足の心配、医療の地域格差が気がかりだ」という切実なご意見を直接伺い、当院は医師派遣においても、最新医療についても、全県域にくまなく期待される医療をお届けする使命がある、という思いを新たにしました。

アンケートでは、「島大病院でこれほど先進的な取り組みが行われていることは知りませんでした。ぜひ、西部の病院にその取り組みが波及することを期待します。」「今後も最新医療についての情報が欲しいです。西部は医療情報が少なく残念です。これからもこのようなフォーラムが欲しいです。」など、たくさんの期待の声が寄せられました。

浜田市・県西部の皆様温かい気持ちで迎えられ、当院にとりましても大変有益なフォーラムとなりました。今後も継続的に開催する予定です。

講座内容


1 「心不全について～その予防から最新の治療まで」
循環器内科 教授 田邊 一明



2 「遺伝子パネル検査を用いたがんプレジジョンメディスン」
産科・婦人科 准教授 中山 健太郎



3 「緑内障の治療について～新しい手術を中心に」
眼科 教授 谷戸 正樹




ご報告

病院医学教育研究助成 平成29年度成果報告会

病院医学教育センター センター長 ひろせ まさひろ 廣瀬 昌博

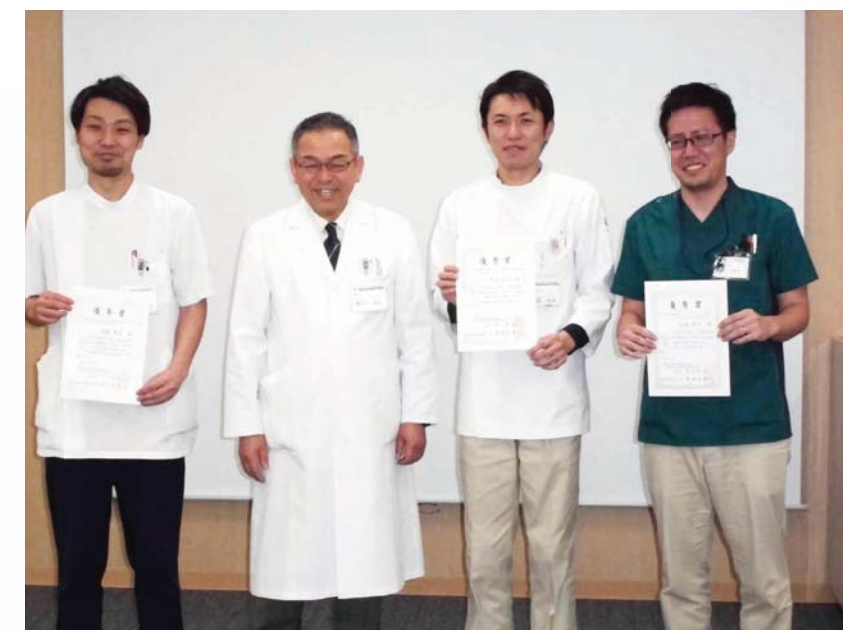
島根大学医学部附属病院では、病院は医師ばかりでなく医療スタッフ全員で支えられており、すべてのスタッフのレベルアップが必要であるとの観点から、病院医学教育研究助成を実施しています。とくに外部資金を獲得する機会が多い医師を除いて、医療スタッフに対し、所属する部署・部門で従事する業務に関連した研究助成を行い、次年度にはその研究成果報告書を提出してもらい、評価委員会による評価を行っています。また、優秀研究に選ばれた研究は年度末に病院医学教育研究成果報告会で発表することになっています。

今年度の病院医学教育研究成果報告会は、平成29年度の研究助成で採択された16件のうち、6件が優秀研究として報告されました。その研究については下欄に示していますが、例えば、リハビリテーション部の森脇繁登氏から申請された「重度障害者における新しい入力装置の実用化に向けた研究－操作方法別の比較検証－」を紹介したいと思います。本院リハビリテーション部では、作業療法士を中心に重度障害者の患者さんに対して、意思伝達における操作習得に向けた支援を行っていますが、その訓練方法は確立されていません。そこで、視線入力インターフェースという眼球運動

でコンピュータ操作を可能にするデバイスをより効果的、効率的に操作できるよう研究を進めています。28年度は操作姿勢に着目し、姿勢に応じた操作性の違いを明らかにし、29年度は操作方法に着目することで、身体や精神、および操作性の違いについて検証したものです。

このように当院では、医師以外の医療スタッフも容易に研究できる環境の整備に努めています。

所属	氏名	研究題目
放射線部	多田 佳司	小児心臓CT検査における被ばく線量実測にむけた研究
リハビリテーション部	森脇 繁登	重度障害者における新しい入力装置の実用化に向けた研究 -操作方法別の比較検証-
検査部	馬庭 恭平	基質特異性拡張型ペーシング装置(ESBL)とカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)
臨床看護学	福田 誠司	大学病院における医師事務作業補助者の効果的定量的解析 -「医療安全」と「医師の負担軽減」におよぼす効果-
検査部	松田 親史	脊髄小脳変性症の遺伝子解析の院内導入
医療安全管理部	栗本 典昭	e-learningを活用した研修実施後の学習効果測定の実施





ご報告



平成30年度総合消防訓練を実施しました

医学部会計課施設管理室

平成31年2月14日(木)13時15分から出雲市消防本部と合同で「平成30年度総合消防訓練」を実施しました。深夜2時にB病棟5階リネン室から火災が発生した想定の下、夜勤看護師、当直医師、防災センター職員、警備員、仮想患者、自衛消防隊による総勢77名で訓練を実施しました。

仮想火災が発生後の非常放送等により院内に連絡を行い、B病棟5階に駆け付けた看護師、医師等が仮想患者(16名)を担架、ストレッチャー、車椅子を用いて一時避難場所であるC病棟5階に避難救助を行うとともに仮想患者が1名行方不明になり、C病棟5階庭園で発見されたとの想定で、出雲市消防本部のはしご車による救出訓練も合わせて行われました。

なお、出雲市消防本部のはしご車は今年度新しく更新された最新の車両で、訓練に使用されたのは今回が初めてとのこともあり、報道機関の注目を集めていました。

寒い中での訓練でしたが、大きなトラブルもなく無事訓練を終了することができました。

出雲市消防本部予防課木佐課長から「安全に患者を避難できたことや、大学関係者と消防署との連携により高層階に取り残された人を救出することの目的は達成できたと思います」と講評をいただきました。

火災はいつ起きるか分かりません。火災時に備え迅速に患者の避難が出来るように今後も訓練を重ねていきます。



ご報告

在宅医療を考える市民の集い 「あなたのお家で、今日からできるケアの話」 を開催しました

地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

地域医療政策学講座では、文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業で地域包括ケアシステムの構築に尽力してまいりました。本事業は平成30年3月末で終了致しましたが、島根大学医学部附属病院が在宅医療における人材育成の拠点として、地域包括ケアに関する情報提供は主要な活動です。

そこで、平成31年1月26日(土)本院みらい棟4階ギャラクシーにおいて、在宅医療を考える市民の集い「あなたのお家で、今日からできるケアの話」を開催しました。

“集い”の冒頭、井川幹夫病院長から参加者の皆様に参加の御礼とともに挨拶を述べた後、早速、“お話し”が始まりました。講師はすべて本院の関係者で、歯科口腔外科分野貴浩診療科長、口腔ケアセンター長松田悠平助教、神経内科・もの忘れ外来濱田智津子医科医員、リハビリテーション部藤沼 拓助教、熊谷英岳言語聴覚士、江草典政療法士長ならびに地域医療連携センター安田真紀看護師長、緩和ケアセンター三吉由美子看護師長の方々でした。超高齢者社会における複雑化、多様化したニーズにこたえ、円滑なケアを提供するには、在宅医療を基本とし、多職種による連携が不可欠です。そこで今回は、それぞれの分野でエキスパートとして活躍する医師ならびに各医療スタッフを揃えました。“お話し”の内容は、在宅医療で患者や家族のみなさんがすぐにでも役に立つよう、医師による理論と医療スタッフによる実践を組み合わせ、口腔ケア、嚥下機能や栄養、住居環境の話題に加え、最後には在宅医療における本院の役割に関する話題でした。“集い”への参加のみなさんは熱心な方ばかりで、中には、「このような活動を今後も続けてほしい」などのありがたいご意見もありました。

今回は、本院のみの講師でしたが、今後は、地域医療連携の観点から、出雲市役所、出雲医師会ならびに出雲歯科医師会、関連施設のご協力を得て開催させていただく予定です。

さいごに、ご参加いただきました市民のみなさんはもちろん、講師や関係諸機関のみなさまに心より御礼申し上げます。





お知らせ

周術期口腔ケアセンターの開設について

歯科口腔外科 診療科長 **かんの たかひろ**
 管野 貴浩
 まつだ ゆうへい
 周術期口腔ケアセンター センター長 **松田 悠平**

当院では、医師、看護師、薬剤師、栄養士などの多職種が連携する「周術期管理チーム」が、手術による合併症の軽減に取り組んでいます。この周術期管理チームには歯科医師・歯科衛生士も含まれ、「口腔ケア」の役割を担っています。

周術期における口腔ケアは、気管挿管を行う全身麻酔で手術を受ける患者さんに行うものであり、全身の合併症軽減対策の一環です。口腔ケアの効果は、胃がんや食道がん手術後の肺炎リスクが低下する、術後30日以内の死亡率が減少するなど、厚生労働省も注目し「周術期等口腔機能管理」としてその対策と効果が評価され積極的に取り組まれています。

われわれ歯科口腔外科では、これまでも抗がん剤や放射線治療を受けられる患者さんの周術期口腔ケアを、先端がん治療センターを中心に院内連携にて努めてまいりました。しかし、今後ますます増加する手術患者さんの周術期における合併症軽減のため、患者さんに安心安全な治療を提供するには、より高度で専門的なチームとしての対応が求められます。

そこで、今後「周術期口腔ケアセンター」を開設し、院内周術期管理チームの機能の一環として、全身麻酔手術を受ける全ての患者さんに口腔ケアを実施することに致しました。

今後も、歯科口腔外科と当院周術期管理チームは連携を密にして、安心安全な治療の提供を目指してまいります。



全身麻酔を受けられる全ての患者さんへ

“口は災いのもと”
手術前のお口のチェック
済ませましたか？

周術期口腔ケアセンターを必ず受診ください!!

手術・周術期の合併症発症率 P<0.0001 Fisher exact test

口腔ケアなし ※合併症：肺炎発症、創部感染、皮膚壊死、肺炎など	64%
口腔ケアあり ※合併症：肺炎発症、創部感染、皮膚壊死、肺炎など	16%

気管挿管時に歯が折れたり、割れたり、抜けてしまったりを予防
マウスピースで歯を守る

島根大学医学部附属病院 周術期管理チーム
麻酔科・歯科口腔外科
Shimane University Hospital Anesthesiology, Oral and Maxillofacial Surgery



ご報告



しまね研修ナビを開催しました！

しまね地域医療支援センター

しまね地域医療支援センターでは、2月15日(金)、島根大学医学部臨床大講堂・学生ラウンジにおいて、『しまね研修ナビ』を開催しました。

県内8つの臨床研修病院が一堂に会し、医学生を対象に各病院の研修状況の紹介や個別相談を行い、当日は島根大学医学部生70名が参加され大変盛況となりました。

全体説明会では、Dr.穂澄による国試対策セミナー、2020年度初期臨床研修制度改正の説明があり、その後の各病院からのプレゼンテーションは医学生の目を引きつけていました。

全体説明会の後は病院毎のブースに分かれて個別相談を行いました。参加した医学生は各病院の医師や先輩研修医の話に熱心に耳を傾けていて、会場内は軽食をとりながら和やかな雰囲気、医学生同士が情報交換を行う姿も見られました。

このしまね研修ナビを通じて、1人でも多くの医学生が県内の病院で研修してくれることを願うとともに、将来的にも島根県内で勤務され、地域医療を盛り上げていただけたらと思っております。





ご報告



ご報告



お餅つき会の様子



節分会の様子

うさぎ保育所のお餅つき会・節分会について

新年が明け、恒例のお餅つき会を1月10日(木)に行いました。うさぎ保育所では毎年、お父さんたちによる「餅つきデモンストレーション」も楽しみの一つ。年々パワーアップした内容に子どもたちも大喜びです。今年は“U・S・Aダンス”と“チョコちゃん”登場に会場は大いに盛り上がり、最高に楽しいお餅つき会となりました。みんなでついたお餅を美味しく頂き、今年一年元気に過ごせそうです。

2月4日(月)は節分会を行いました。今年もひまわり組の子どもたちは鬼の苦手な「ヒイラギとイワシ」の絵を描き、鬼さんが迫って来ないように一生懸命「結界」作りをしました。そのおかげで怖い鬼さんにも全力で立ち向かうことができ、「おには～そと～」と力いっぱい豆まきができました。最後は、みんなのパワーでふらふらになった鬼さんがお山に帰って行くのを見送りました。



お餅つき会の様子



退院後訪問で在宅と病院をつなぐ

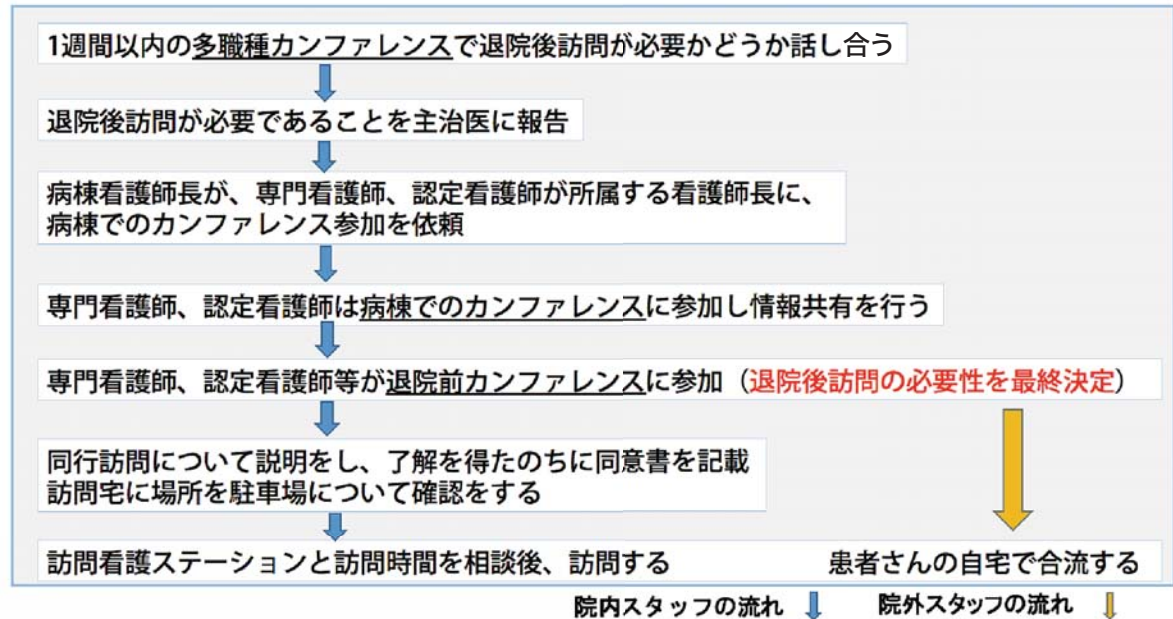
看護部長 かんだ まりこ
神田 眞理子

地域医療構想の中、病院と地域の看看連携・多職種連携による在宅支援がさらに重要となっています。当看護部は、2018年3月から、地域包括ケアシステム実現のため、切れ目のない在宅支援ができることをめざし、認定看護師、病棟看護職等が当院を退院後の患者さんを対象に、訪問看護ステーションの看護師、保健師等と一緒に自宅へ訪問する「退院後訪問」を開始しました。

退院後訪問の対象患者さんは、新生児から高齢者まで多岐にわたっています。入院後から、各病棟の看護職、多職種で退院後訪問の必要性を話し合い、運用を円滑にするために、退院後訪問の運用フロー(図)を作成しました。また、看護職だけでなく、医師、作業療法士等と共に訪問も行っており、患者さん、ご家族へより安心、安全な在宅医療の提供ができるようになりました。

今後は、実施件数や多職種とともに訪問する件数も増やしていくことで、地域包括ケアシステム実現を目指したいと思います。

図 退院後訪問の運用フロー





お知らせ

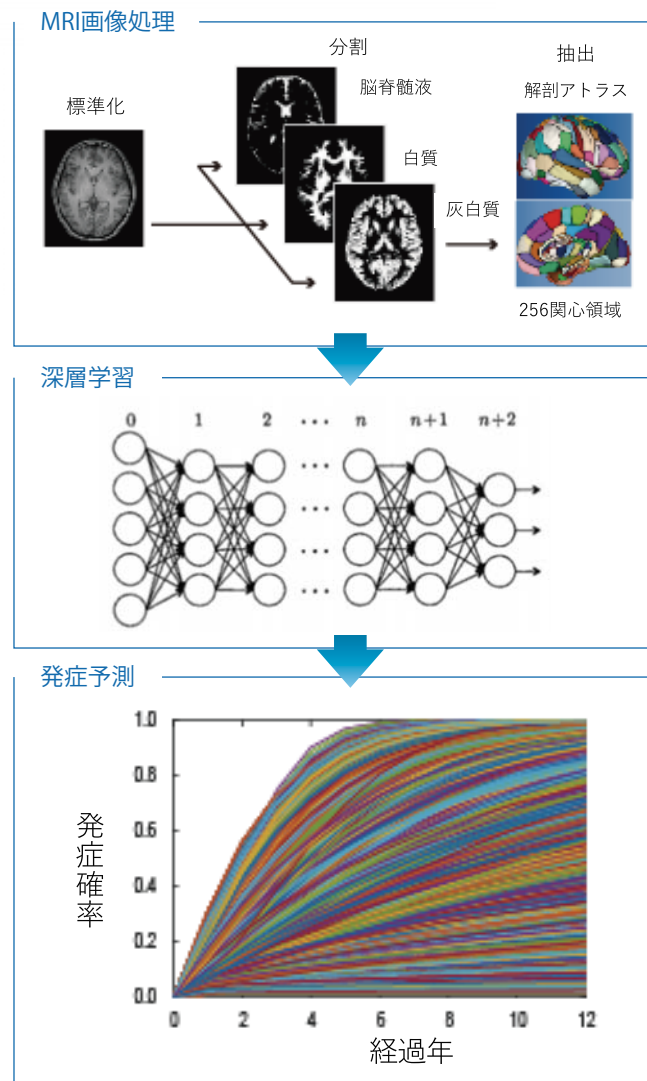
島大病院ニュース 2019年3月

人工知能を用いた認知症への進展予測

脳神経内科 教授 やまぐち しゅうへい
山口 修平

平成30年度から、診療内容をより分かりやすくするために、日本神経学会の主導で標榜診療科の名称を「神経内科」から「脳神経内科」に変更しましたのでお知らせいたします。

高齢化社会の到来で認知症の問題が大きく取り上げられています。最近の脳神経内科の取り組みの一つとして、人工知能を活用した認知症診断の精度向上があります。認知症は早期に正確に診断する事が重要ですが、MRI画像の詳細な解析はそれを可能にする一つの手段です。現在、VSRADという海馬萎縮を定量化する手法が使用されていますが、進行や予後の予測は困難です。私どもはMRI画像と予後データを人工知能に深層学習させることで、軽度認知障害からアルツハイマー型認知症への進行タイミングを予測するモデルを開発しました。このモデルを用いるとほぼ8割の精度で、正確に認知症への移行の時期を個人レベルで推定出来ます。現在特許申請中ですが、近い将来に臨床応用できることを目指しています。



各個人のMRI画像の特徴を抽出し、それを人工知能による深層学習にかけることにより、認知症発症確率の予測を行います。



お知らせ

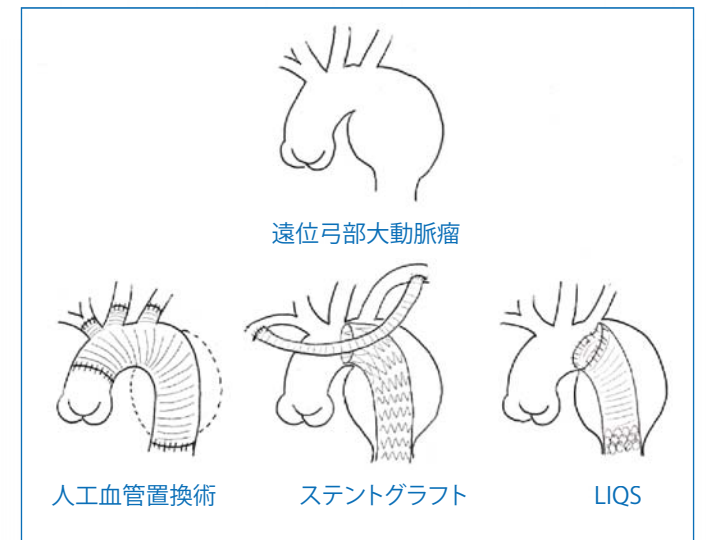
島大病院ニュース 2019年3月

胸部大動脈疾患に対する低侵襲手術 ～LIQS (リックス)法～

心臓血管外科 助教 いまい けんすけ
今井 健介

従来、遠位弓部大動脈瘤に対して正常な弓部3分枝も含めて人工血管置換術が行われてきました。最近ではステントグラフトによる非開胸手術も行っていますが病変の性状によってはバイパスの追加が必要であったり、術後に漏れが生じてしまうこともあります。

当科では、日本大学で2014年に開発された低侵襲胸部大動脈手術Less Invasive Quick open Stenting (LIQS)を導入しています。胸骨正中切開を行うのは従来通りですが、低体温循環停止下に大動脈を部分切開し、オープンステントグラフトを内挿・縫着します。縫合箇所も少なく、出血のリスクも大幅に軽減、手術時間も従来の1/2～1/3に短縮され、早期退院が期待できる治療です。現在中国地方で本術式を行っているのは当施設だけとなり、2017年12月から2018年12月まで4例行っています。平均手術時間は2時間49分、ICU入室期間2日、在院日数15日でした。1年経過後もエンドリーク等の合併症はございません。



医局員一同、島根県の心臓血管外科診療に貢献できるよう尽力しております。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

